



こまつ かいぞう
小松 快造 議員
(富岳会)

北部地域の現状について

問 車社会の今、宮タクなどの行政サービスはあるが、利用しにくいなどの理由から利用率が低い。何か対策はあるのか。

部長 利用率が低い原因は、事業の周知が行き届いていないことが考えられる。

今年度から新たに市民満足度調査のための市民アンケートへ宮タクのチラシを同封し、区長会総会においても宮タク利用の案内をお願いし、制度の周知に務める。

問 北部地域の小売店廃業に伴い高齢者の食品調達が困難であるが、何か対策を立てられないか。

部長 出張商店街でも地域ニーズを把握し、移動スーパーやコンビニなど、民間事業者との連携による「買い物支援」について地域福祉の観点から研究を進めていく。



こんどう ちづる
近藤 千鶴 議員
(令和)

市立病院の医師確保について

問 必要な医師数は。

病院長 70人。現在は65人が在籍。

問 市長の大学病院への訪問数を増やせないか。

市長 大学と良好な関係を築いてきた。医局だけでなく、他の催しでも会いお願いしている。

問 医師確保に大きな影響を与えるホームページの現状は。

部長 閲覧回数8万2206回。作成費450万円。年間保守費用75万円。

病院長 リニューアルを行い、市民の声を載せたり、診療科の啓発もしていく。

問 市民として議員としてできることは。

部長 市民としては医師が働きやすい環境の構築。議員としては富士宮に来ていただけそうな医師の情報提供。

問 北山本門寺南側のグラウンドにあるトイレの改修はできないか。

市長 公園がない地域なので、多目的に不特定多数が利用するのであれば、市として整備することも検討する。

地域循環共生圏について

問 環境省の地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた、地域循環共生圏の創造に取り組む活動団体の公募事業にエントリーされたが結果はどの様になったのか。

部長 県内では、富士宮市、浜松市、伊豆半島ジオパーク推進協議会、裾野市深良地区の4地区が採択された。今、富士宮市SDGsは富士山SDGsと呼ぶ。富士山の自然、教育、そして人の生活も持続可能な社会の象徴的なものがまさに富士山です。富士山SDGsを推進して行きたい。この地域循環共生圏については、SDGsの取り組みの中核的、象徴的な取り組みだと思っている。

湧水や濁りが深刻な富士川について

問 富士川における既得水利権をどう考えるか。

部長 河川管理者の国土交通省の管理のもとに適正に利用されている。

問 湧水でアユも遡上してこない富士川のことを下流域の協議会で話し合う機会を設けてほしい。

部長 富士川下流市連絡協議会でしっかり富士宮市として意見を述べていく。

問 山梨の早川水系での汚泥問題を市としてどう考えるか。

部長 富士川の水質に相当な影響を及ぼし、重大な問題と認識

問 市としてできることは。

部長 県や国土交通省と情報を共有し原因の究明や対策の働き掛けをする。水質の継続調査を実施し、パトロール事業において監視する。

市長 県にしっかり言っていかなければいけない。稲子川、稲瀬川、堺川にもアユが戻ってくるように力を合わせていきたい。